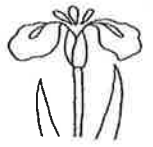


保健だより

5月の保健目標
 疾病の治療を
 しよう



感染症 伝染病について

平成29年度5月 辰口中学校「保健室」

金沢市で4月に麻疹患者の発生がありました。感染症の病気はいろいろありますが、感染を広げないように注意する必要があります。下記に学校感染症と出席停止の期間をのせました。学校感染症と診断された場合は学校への連絡をお願いします。

感染症の原因

細菌やウイルスなどの病原体が体内に入って病気がひき起こされることを感染症といいます。

感染のしかたとしては

人から人へ(伝染病) / 動物などの生き物から人へ(動物由来感染症) / 土中などから傷口を通じて / 食べ物から があり、

病原体の種類では

細菌 / ウイルス / 寄生虫・原虫 / カビなどによるものがあります。

感染症と伝染病

病原体に感染しただけでは感染症ですが、その感染症が人から人にうつるものであれば「伝染病」ということになります。



文部科学省による出席停止になる学校感染症と出席停止期間

種類	感染症名	出席停止期間
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱 痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルスによるものに限る)	治癒するまで
	鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型がH5N1であるものに限る)	
第2種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ<H5N1>を除く)	発症した後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで(未就学児童は3日を経過するまで)
	百日咳	特有の咳が消える、または5日間の抗菌性物質製剤による治療終了まで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	腫れが出た後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風疹(3日ばしか)	発疹が消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状消退後2日を経過するまで
第3種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	症状により医師によって感染のおそれがないと認められるまで
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎	病状により医師によって感染のおそれがないと認められるまで
	*その他の感染症	
	溶蓮菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症など	*その他の感染症は必要があれば、学校医の意見を聞き、第3種の感染症として措置をとることができる疾患です

能美市の健康推進課から、麻疹についての注意喚起がでています。
ご一読下さい！

健康推進アラカルト（感染症）
麻疹（はしか）

予防接種はお済みですか？

麻疹（はしか）は予防接種が有効です



ワクチン.netより

金沢市で4月に麻疹患者の発生がありました。予防方法は予防接種によって麻疹に対する免疫をあらかじめ獲得しておくことです。麻疹の感染性の高さ、重症化した際の疾患のリスクを考慮し、積極的な麻疹対策をお願いします。

●麻疹とはどのような病気ですか？

麻疹は「はしか」とも呼ばれる急性の全身感染症で、毎年春から初夏にかけて流行が見られます。患者発生の中心は0～1歳となった一方で、20歳以上の成人例の割合も増加しています。

●どのようにして感染するのですか？

麻疹は麻疹ウイルスによっておこる感染症で、人から人へ感染します。感染経路としては空気感染のほか、飛沫感染や接触感染など様々な経路があります。感染力はきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。不顕性感染（感染はしても発症しない＝症状がでない）はほとんどなく、感染した90%以上の人が発症します。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前（発疹出現の3～5日前）から発疹出現後4～5日目くらいまでで、学校は解熱後3日を経過するまで出席停止となります（麻疹は、学校保健安全法に基づく第二種学校感染症に指定されており、欠席扱いにはなりません）。なお、感染力が最も強いのは発疹出現前のカタル期です。

●どのような症状がでますか？

約10～12日の潜伏期の後に、「カタル症状（鼻水、咳、結膜充血、めやに等）」と共に38℃以上の発熱が認められます。いったん解熱するかに見えるものの再び高熱となり、全身性の発疹が現れて高熱は4～5日続きます。

発疹が現れる前より「コプリック斑（周りが赤く中心が白い）」と呼ばれる粘膜疹が頬の内側に認められます。コプリック斑は麻疹に特徴的な症状ですが、発疹出現後2日目を過ぎる頃までに消えてしまいます。この時期には高熱が続き、カタル症状が一層強くなります。

発疹出現後3～4日間続いた発熱は解熱し、全身状態、元気が回復し、カタル症状も次第に軽快してきます。合併症のないかぎり7～10日後には主症状は回復します。感染すると免疫機能低下を示すため、身体が感染しやすい状態となりウイルスが直接侵入してきます。そのため二次感染による肺炎や中耳炎も多くみられています。

●治療方法はありますか？

特異的な治療法はありませんが、予防接種で予防可能な感染症です。

●感染しないようにするために、どのようなことに注意すればよいですか？

唯一の予防方法は、予防接種によって麻疹に対する免疫をあらかじめ獲得しておくことです。麻疹ウイルスの直径は非常に小さいため、マスクでの予防は難しくなります。

麻疹風しん(MR)定期予防接種（2回の接種が必要です）

1期：1歳～2歳未満

2期：小学校就学前の1年間

平成元年生まれ以前の方は、麻疹（麻疹風しん）定期予防接種は1回のみ接種となっております。

感染に十分注意していただくこと、また予防効果を確実にするためには2回接種をされることをお勧めします。接種履歴は母子手帳をご確認ください。

《問い合わせ先》

能美市健康福祉部健康推進課

電話(0761)58-2235

能美市健康推進課（2017.4 修正）